

2023年3月27日

2022年度 第2回理容科教育課程編成委員会議事録

1. 開会日時 2023年3月27日(月) 12:30-13:30
2. 開催場所 埼玉県理容美容専門学校 浦和校舎 2階 ホール
3. 出席者 7名

	氏名	所属
1	石井 孝之	埼玉県理容生活衛生同業組合 常任理事
2	福島 正尚	埼玉県理容生活衛生同業組合 本部講師会 幹事長
3	若月 良仁	埼玉県理容生活衛生同業組合 本部講師会 幹事
4	吉野 昇邦	埼玉県理容生活衛生同業組合 常任理事
5	増村 信雄	埼玉県理容美容専門学校 校長
6	千住 義祐	埼玉県理容美容専門学校 教務課長
7	松本 朋子	埼玉県理容美容専門学校 理容科主任

4. 学校長 開会挨拶 (増村校長)
5. 2022年度第1回・教育課程編成委員会の目的 (司会・千住課長)
本校における授業内容および学生指導が将来の職業実践に寄与しているか、について2022年第1回目で意見聴取した点を、2023年度に活かして改善する方法の検討。

1. (3) 2023年度 改善に関する検討

吉野 ほとんどの問題は、基本的な生活習慣に起因する。例えばスマホ依存などは、生活のリズムが乱れるばかりでなく、落ち着きがない、集中力がない学生を作ってしまうと感じる。瞑想でもさせたらよいと思う。

松本 集中させるものが、授業以外でも何か必要だと感じる。集中力はどう養ったらよいか。

吉野 挨拶などが気分次第で徹底できないのは、目的がないから感情の起伏が激しくなるので、目的意識を持たせるべき。自分のセルフイメージを瞑想の中で描かせる。社会人になってからの目的意識も希薄になりがちなので、自分の目的を常に意識させることが大切と考える。

松本 目的意識、自分がどうなりたいかについて、まず現実を知らない。実体験をせず、自分で調べ、考える前に Google などで安易に検索してしまう。

吉野 現代生活にデジタルは欠かせないが、アナログの面白さをもっと知ってもらいたい。

石井 WBC で活躍した大谷選手の、9 マスのセルフイメージのワークなど面白いのではな

いか。笑顔を作るために何が必要なのか?など組み立てる作業をさせる。とにかく自身で考えさせることが必要である。

若月 1年生の最初にそのワークをすることを提唱したかった。1年次と2年次に実施しても良いと思う。成長とともに考え方も変わるだろう。

石井 自分自身を見つめなおすのに良いのではないか。

若月 目的を中心において、具体的な方法を考えていくワークなので、非常に有効だと思う。

松本 自分の将来設計は、まだ1年生では難しいかもしれないが、チャレンジしてみたいと思う。

吉野 甘やかされて、何も苦労していないところから、まずは意識づけをして目標を明確にする。大学でも最初から目標を明確にしていくのは難しいし、専門学校の2年間では厳しいかもしれないが、考え方だけでも学んでほしい。

司会 2023年度はコロナ禍のも終息が期待される。本校でも2022年から感謝祭など少しずつ学校行事を復活させているが、この点で何か意見をいただきたい。

若月 2022年度の感謝祭は、保護者として見学させてもらい、二年生が一年生にしっかり指導することに感銘を受けた。内容が素晴らしかった。2023年度からは、どんどんお客様が入り、サロンワークの楽しさが体験できると良いと思う。

また、新校舎は通りから見えるデザインになっている。ぜひサロン実習ではブラインドを上げて、通行する街の人たちに学生の取り組みを見てほしい。外の人たちが良く見てくれると、やはり緊張もするがその中で集中もできるようになる。

見られている意識があると、しゃんとするのはないか。ヘア・ショーも、外に向かってアピールすることが良い結果につながると思う。

松本 見られている意識は確かに大切だと思う。新校舎の施設が使いきれていない事を痛感した。見せることは確かに重要な要素である。

石井 すごく良い。ブラインドを上げるのは効果があると思う。サロンでも、自分の努力を外を歩いている人に見せなさい。と指導して様々な効果があった。

司会 実務実習を今年復活させた。この点について意見をいただきたい。

若月 娘がこの3月に美容サロンで実務実習2日間を行ったが、繁忙期で実務実習はどうだろうか?また、サロンワークで戸惑うことが多かったと聞いている。学校でのサロンワークの指導が足りていないのではないか。特に繁忙期では対応してくれる先輩も忙しく、何をしてもよいかわからなかったと言っている。あまり教育効果がないのではないか。

松本 コロナ禍で2年間実施ができず、緩和のタイミングを計っていた。確かに準備期間が取れなかったのが、対応が難しかったかと思う。

松本 実務実習は、学習の中で非常に大切な要素である。進級前にぜひサロンの現実に触れてほしいと考える。

若月 期間が二日間と短いことも効果が少ないのではないか。

石井 学校で、サロンに立った時すぐできることなどを、まとめて学生に教えてほしい。サロンで戸惑うことが多いのは、カットが終わったらカットクロスを取るだけでなく、どうすればよいのか、ちゃんと先輩に聞くなど 基本の「き」ができていないためではないか。

若月 卒業生講話は、卒業してうまくいった先輩だけでなく、卒業してすぐの先輩から、講話をしてもらうことも必要ではないか。

松本 確かに、その直後の実務実習も良いと思う。

吉野 サロンの考え方にもよるが、実務実習生をしっかり一から指導するのか、しばらく様子を見るのかで、学生が体験できねる内容が大きく違ってくる。

福島 春日部支援学校のことで、授業では力が発揮できなくても、各イベントなどで力が出る学生もある。そこから自信をもってさまざまに活躍することもある。各種のイベント、授業以外に活躍できる機会があると良いと思う。

松本 普段やっている学生が、イベントでは活躍していなかった面もある

福島 実体験を通してでないといけない、自分自身のこともある。

松本 それは、自分を多角的に知ることもできる機会になると思う。

吉野 課外授業でオペラや歌舞伎など、学生がなかなか触れられないものを体験することで、学生の感性が育つ機会になる。実体験は大切

松本 生きていく楽しさが足りていないと最近痛感している

吉野 良い刺激はとても大切ではないか。

若月 理容学生時代に、課外授業でディズニーランドに行った記憶がある。どこかで一日息抜きをしたり、キャストの仕事など、接遇を観察したりという体験も良いのではないか。サロンでの接遇も違いがあるが、色々なことが学べるきっかけも大切。

校長 費用の点で限られたイベントとはなりますが、2022年度のミルボンのヘアショーなど、そうしたイベントでも工夫して接客など学べると考える。

吉野 コロナ禍で学んでいる在校生に、「楽しさ」を体験して欲しい。何か「楽しさ」を感じてもらうことが必要ではないか。これからは、「楽しく学ぶ」が、ワクワクするが、とても求められるのではないか。

校長 成長していくこと自体が楽しめること、エンジョイすることも、両輪で楽しめる理想的である。

- 石井 卒業後に、卒業生の就職後の追跡は出来ているか？
- 松本 比較的、理容科は卒業後によく連絡してくれているので、ある程度は動向をつかめている。
- 石井 卒業後も良い関係が築けているのは良い。卒業生からのフィードバックとして多様化している業界の事も知りたい。
- 若月 例えばタトゥーの事も、最近は容認をするサロンもあるが、最近の業界の様子はとても気になる。
- 松本 国家試験でもタトゥーは失格要件でなくなった。逆にテープなど隠すと衛生で減点となります。
- 吉野 正直、タトゥーはファッションとして若い世代は考えているようだが、将来像がしっかりしていないために、そういう行も出てしまうのではないかと懸念している。
- 司会 いろいろと活発な意見交換があり、充実した会議となった。今回の改善目標は主として8つ挙げられる。

- 1 教務は卒業生講話のバリエーションを増やす
- 2 教務はシャンプーやヘッド・スパ技術について設備を活かして多様に取り組む
- 3 学生に対して、社会人としてのライフ・デザインに取り組ませる
- 4 教務は学生に「見られる意識」を与えて集中させる
- 5 教務は福祉のイベントなどを増やして学生全員が活躍できる機会を設ける
- 6 教務は学生に実体験をさせるよう授業を計画する
- 7 学生に働く意識、目的を持たせるよう指導する
- 8 学校は楽しいというキーワードを意識して授業計画に取り組む

2. その他

連絡事項教育課程編成委員会は年2回を予定

- 1回目 9月25日(月) 2回目 2月26日(月)

3. 校長挨拶

活発な意見交換に対して謝意を述べ、アフター・コロナの進捗を踏まえつつ、様々な実体験を学生に提供できるように計画することを2023年の目標に掲げる。

4. 閉会宣言

2023年度 理容科 取り組み目標

- 1 教務は卒業生講話のバリエーションを増やす
- 2 教務はシャンプーやヘッド・スパ技術について設備を活かして多様に取り組む
- 3 学生に対して、社会人としてのライフ・デザインに取り組ませる
- 4 教務は学生に「見られる意識」を与えて集中させる
- 5 教務は福祉のイベントなどを増やして学生全員が活躍できる機会を設ける
- 6 教務は学生に実体験をさせるよう授業を計画する
- 7 学生に働く意識、目的を持たせるよう指導する
- 8 学校は楽しいというキーワードを意識して授業計画に取り組む